

第1回理事会(臨時) 議事概要

1 開催日時 令和8年4月30日(木) 15時00分～17時00分

2 開催場所 Japan Sport Olympic Square 14階 岸清一メモリアルルーム(東京都・新宿区)
次の役員は、自宅や職場、出張先からWeb会議システム(インターネット回線を使用した音声と映像を伝達するシステム)により参加すると同時に適時的確な意見表明が互いのできる状態となっていることを確認した。

| | | |
|---------|---------|---------|
| 渡 邊 守 成 | 井 上 康 生 | 赤 間 高 雄 |
| 大久保 秀 昭 | 鈴 木 大 地 | 村 井 満 |
| 來 田 享 子 | 工 藤 陽 子 | |

3 出席者 理事総数 30名

出席理事 26名

| | | | |
|-------|---------|-------|---------|
| 会 長 | 橋 本 聖 子 | 副 会 長 | 渡 邊 守 成 |
| 副 会 長 | 三 屋 裕 子 | | |
| 副 会 長 | 北 野 貴 裕 | | |
| 専務理事 | 太 田 雄 貴 | | |
| 常務理事 | 小 谷 実可子 | 常務理事 | 星 香 里 |
| 常務理事 | 林 肇 | 常務理事 | 井 上 康 生 |
| 常務理事 | 八 木 由 里 | | |
| 理 事 | 赤 間 高 雄 | 理 事 | 伊 東 秀 仁 |
| 理 事 | 伊 藤 弘 一 | 理 事 | 岩 淵 健 輔 |
| 理 事 | 大久保 秀 昭 | 理 事 | 栗 原 美津枝 |
| 理 事 | 杉 山 文 野 | 理 事 | 鈴 木 大 地 |
| 理 事 | 須 藤 実 和 | 理 事 | 田 口 亜 希 |
| 理 事 | 羽根田 卓 也 | 理 事 | 原 田 雅 彦 |
| 理 事 | 水 鳥 寿 思 | 理 事 | 村 井 満 |
| 理 事 | 村 上 めぐみ | 理 事 | 來 田 享 子 |
| 監事総数 | 3名 | | |
| 出席監事 | 3名 | | |
| 監 事 | 工 藤 陽 子 | 監 事 | 寺 田 昌 弘 |
| 監 事 | 塗 師 純 子 | | |

4 議事の経過の要領及びその結果

本理事会は定款第30条の規定に定める定足数を満たしており、適法に成立した旨を告げた後、審議に入った。

5 議 案

(1) 令和7年度JOCスポーツ賞について

- ・アントラージュ専門部会にて、JOCスポーツ賞規程に基づき、令和7年度に開催された国際総合競技大会、ジュニアを含めた世界選手権大会における競技成績や功績を踏まえてJOCスポーツ賞「年度賞」「トップアスリートサポート賞」「女性スポーツ賞」各賞の受賞候補者を選考した。
- ・「特別貢献賞」については、誹謗中傷対策や震災復興活動等の提案があったが、本賞の趣旨等を踏まえて今回は推薦に至っていない。アントラージュ専門部会にて、引き続き、スポーツで社会課題

の解決に貢献する活動等の表彰を検討していく。

【決議事項】

- ・令和7年度JOCスポーツ賞「年度賞」「トップアスリートサポート賞」「女性スポーツ賞」の受賞候補者の承認

(2) 第20回アジア競技大会(2026/愛知・名古屋)の派遣について

- ・柔術競技、パデル競技、テックボール競技への選手及び監督・コーチ等の派遣について説明。
- ・令和8年3月にパデル及びテックボールの2競技が新たに正式競技として追加されたことを受け、各競技団体に対しヒアリングを実施し、本大会への出場意向を確認。
- ・柔術競技は、当初より正式競技として位置付けられていたが、国内に複数の競技団体が存在し、統一された国内統括団体が確認できない状況にあり、現在、一般社団法人全日本柔術連盟を統括団体とする旨の覚書を関係競技団体間で締結する予定であり、当該覚書が締結された場合には、本大会への派遣を希望する意向が示されている。これらの状況及び現時点での加盟状況を踏まえ、編成方針や国際総合競技大会等派遣規程等を理解し遵守すること等、所定の条件を全て満たすことを前提に、派遣に関する覚書を取り交わした上で、TEAM JAPANとしての編成及び派遣を進めていく。なお、本件については、令和8年度第1回選手強化本部選手強化事業専門部会の承認を得ている。

【決議内容】

- ・パデル競技、テックボール競技のTEAM JAPANとしての派遣。
- ・柔術競技については、一般社団法人全日本柔術連盟を国内統括団体とする旨の覚書を締結し、諸条件を付したうえで、TEAM JAPANとして派遣する。

(3) オリンピック競技大会等派遣旅費規程の変更について

- ・国際総合競技大会のアクレディテーションカテゴリーとして新たにウェルフェアオフィサーが追加されたことに伴う対応として、謝金支給の根拠およびその位置づけを明確にする必要が生じている。
- ・現行のオリンピック競技大会等派遣旅費規程では、旅費については規定されているが、謝金については明文化されていない。
- ・国際大会における役割の多様化を踏まえ、職務の性格に応じた支給区分を明確にする観点から、オリンピック競技大会等派遣旅費規程第12条に「また、会長は、本会の職員に対して派遣手当を、本会の職員以外の選手等に対して謝金を、それぞれ支給することができる」と付記する。
- ・あわせて、「オリンピック競技大会等派遣に係る報酬及び費用に関する内規」について、ウェルフェアオフィサーの謝金額を付記する。

【決議内容】

- ・オリンピック競技大会等派遣旅費規程の修正・追加並びに変更

(4) 令和8年度コーチ等設置事業関係理事との利益相反取引の承認について

- ・令和8年度コーチ等設置等事業で委嘱したコーチ等に本会理事が含まれており、本会と本会の理事とが取引をすることは、一般社団法人及び一般財団法人に関する法律第84条第1項及び第197条に定める利益相反取引に該当するため、当該法令及び利益相反マネジメント規程第7条第2項に基づく手続きを取り進めたい。
- ・委嘱期間は、令和9年3月31日まで。
- ・当該理事は、本議案について特別利害関係を有するため、議決には加わらないものとする。

【決議事項】

- ・令和8年度コーチ等設置事業関係理事との利益相反取引の承認。

6 報告事項

(1)第 25 回オリンピック冬季競技大会 (2026/ミラノ・コルティナ) 関係について

1) TEAM JAPAN に対する内閣総理大臣感謝状授与式等

オリンピック・パラリンピック合同で、文部科学大臣表敬、内閣総理大臣表敬、内閣総理大臣感謝状授与式を実施した。文部科学大臣表敬では、TEAM JAPAN を代表し伊東団長が、内閣総理大臣表敬では、橋本会長が挨拶。またフィギュアスケートの坂本花織選手が選手代表として挨拶し、メダリストサイン入りウェアを贈呈した。内閣総理大臣感謝状授与式では、高市内閣総理大臣から伊東団長に感謝状が授与され、記念品をフリースタイルスキーの堀島行真選手が受け取った。競技やオリンピック・パラリンピックの枠を超えた交流が見られる等、選手にとって大変貴重な機会となった。

2) TEAM JAPAN 応援感謝パレード

コロド室町テラス大屋根広場を中心に、オリンピック選手 71 名、パラリンピック選手 43 名、計 114 名の選手が参加し、TEAM JAPAN 応援感謝パレードを開催した。

沿道には約 5 万人が訪れ、選手たちはコース上に 3 か所設置したステージにおいて、エスコートキッズによるインタビューに応じた他、観客に直接感謝の気持ちを伝える等、交流を図った。警視庁及び会場を管轄する中央警察署、日本橋消防署等の多大なる協力をいただき、大きな混乱やトラブルもなく、無事に実施することができた。

3) TEAM JAPAN 感謝の集い

TEAM JAPAN パートナー 16 社に加え、関係機関・メダリスト家族等の合計 140 名が参加し、感謝の意を伝えることを目的に JPC と共催で TEAM JAPAN 感謝の集いを開催した。

4) 応援ありがとう企画トークイベント等

4 月 19 日、日本オリンピックミュージアムにおいて、全日本スキー連盟の協力により、スノーボード男子ビッグエアで金メダルを獲得した木村葵来選手、モーグル個人で銅、デュアルモーグルで銀メダルを獲得した堀島行真選手をゲストとして、トークイベントを開催。トークショー及び記念撮影会には、一般参加者約 50 名の他、テレビ 1 社、新聞・雑誌等 4 社の取材があった。

4 月 25 日、同じく日本オリンピックミュージアムにおいて、JPC との共催で、パラアルペンスキーの村岡桃佳選手、鈴木猛史選手、パラスノーボードの小栗大地選手をゲストとしてトークイベントを開催。トークショー及び記念撮影会には、一般参加者約 50 名の他、テレビ 2 社、新聞・雑誌等 1 社の取材があった。

4 月 26 日、中央区晴海の TEAM JAPAN 2020 VILLAGE において、三井不動産レジデンシャル主催として、スピードスケートの高木美帆選手、佐藤綾乃選手のトークイベントを開催。一般の方とオリンピックが触れ合う機会作りを目的として、三井不動産レジデンシャルと共同で開催し、子供から大人まで 124 名がイベントに参加した。

(2) 令和 7 年度スポーツ団体ガバナンスコード適合性審査委員会による対象団体の審査について

令和 7 年度第 7 回理事会において、本会加盟団体 17 団体に関する令和 7 年度スポーツ団体ガバナンスコード適合性審査結果について承認を得た。

その後、11 団体について改善の報告があり、本会加盟団体 17 団体のうち好事例は 7 団体、要改善事項は 3 団体となった。要改善事項が付された団体について、今年度にフォローアップを実施する。

(3) 加盟団体審査委員会関係について

日本ボブスレー・リュージュ・スケルトン連盟について、加盟団体審査委員会を開催し、事案発生の背景や連盟の運営体制、ガバナンス上の課題、再発防止策の検討状況等について議論した結果、連盟全体としてのガバナンス不全や、体制上の問題が主な要因であるとの認識が示された。

今後の対応を検討するにあたり、事実関係をより詳細に確認する必要があることから、同連盟に対し、今回の事案の経緯、背景、時系列整理に加え、再発防止策を含めた詳細な報告を求めると共に、アスリートの声を組織運営に反映させる仕組みとして、アスリート委員会の設置を要請した。引き続き

き、加盟団体審査委員会にて対応の検討を行う。

(4) 国際総合競技大会関係について

1) 第20回アジア競技大会(2026/愛知・名古屋)に対する取り組み

愛知・名古屋アジア大会、ロサンゼルス2028大会を見据え、各競技団体における競技力の現状把握及び大会に向けた準備状況を確認することを目的とし、各競技団体の大会・合宿等の視察を昨年12月より始動。現時点で、12競技・13種別への視察を実施した。

2) 第6回アジアビーチゲームズ(2026/三冊)TEAM JAPANについて

TEAM JAPANの編成数については、男子14名、女子13名、選手計27名、監督・コーチ等20名、合計47名の編成。TEAM JAPANの旗手は、開会式は小林祐也選手(トライアスロン/アクアスロン)、石井美樹選手(バレーボール/ビーチバレーボール)が務め、本日の閉会式は山田義起選手(レスリング/ビーチレスリング)が務める。

今大会は、45のNOCが参加し、アスリート1,635名、役員924名、合計2,559名が参加。4月30日時点でTEAM JAPANは銀メダル1、銅メダル2を含む、総数9の入賞。

本日が閉会式のため、概要報告は次回理事会にて報告する。

(5) 選手強化本部関係について

1) 令和8年度オリンピック強化指定選手・ネクスト強化指定選手・強化スタッフの認定数(4月1日付)

夏季競技は、強化指定選手1,318名、ネクスト強化指定選手316名、強化スタッフ2,293名、冬季競技は、強化指定選手378名、ネクスト強化指定選手95名、強化スタッフ484名、非オリンピック競技は、強化スタッフのみで460名、合計、強化指定選手は1,696名、ネクスト強化指定選手411名、強化スタッフ3,237名。

2) 令和8年度コーチ等設置事業・コーチ等一覧(4月1日付)

本会が委嘱したコーチ等は、ハイパフォーマンスディレクター42名、ハイパフォーマンスアシスタントディレクター84名、ナショナルヘッドコーチ51名等、合計440名を設置。JOCの委嘱者は22名。

3) 令和8年度JOC ナショナルコーチアカデミー受講予定者

今年度の受講予定者は、23団体41名。今後、本会が承認するナショナルヘッドコーチ及びナショナルチームコーチ予定者からの受講希望があった場合、当事業で推薦書及び調書を確認の上、今年度受講者として認め手続きを進める予定。

(6) オリンピック・ムーブメント事業本部について

1) JOM 運営報告

令和7年度の総入館者数は47,526人。

現在開催中のミラノ・コルティナ2026冬季大会の企画展終了後に、秩父宮記念スポーツ博物館と連携し、東京1964大会、東京2020大会にフォーカスした、昭和100年記念企画展を開催予定。

6月16日から23日、日本オリンピックミュージアムにて、オリンピックによる館内ガイドツアーのプログラムである「オリンピックデー」に加え、6月23日のオリンピックデーを記念し、オリンピックと共に館内で様々な催し物を開催する「オリンピックデーウィーク」を開催予定。

修学旅行や校外学習でJOMを訪れる生徒に対してオリンピックが先生役となり、教育普及事業として、オリンピックバリューを伝える「オリンピック教室 in JOM」を実施予定。

この他、TEAM JAPAN パートナーと連携したイベントや、愛知・名古屋アジア大会に関連した企画等、随時、計画する。

2) AINAGOC×JOC×JPC 合同アスリート委員会

AINAGOC、JOC、JPC の3団体から計23名のアスリート委員が参加し、合同アスリート委員会を開催。開催国におけるアスリートの声を大会組織委員会に届けると共に、大会に向けた機運醸成を図ることを目的として、選手村の仮設施設、ITを活用した選手交流、アスリートが主体となって地元学生と行うボランティア活動等について、リアルで活発な意見交換を行った。会議冒頭をメディアに公開すると共に、終了後には3団体の委員長によるブリーフィングを実施し、報道機関8社が取材。国内のアスリート委員が連携し、大会に向けて機運を高めていく姿勢を対外的に発信した。

3) JOC アスリート委員会選挙について

本会ウェブサイトにて、アスリート委員会選出委員選挙規則第7条の規定に基づき、冬季大会選挙区選出委員選挙告示を実施し、対象の競技団体にも案内を行った。

立候補届出期間は、約40日間。立候補届の受付期間は、令和8年5月22日から6月30日まで。投票期間は、令和8年7月22日から8月31日まで。投票方法は、オンライン投票により執行する。

(7) 事務局規程(別表)の改訂について

前回理事会で一任をいただいた事務局規程(別表)の改訂について、改訂内容を報告。4月の事務局体制変更に伴う部署名の変更、所管業務の文言を修正した。

(8) 第20回アジア競技大会(2026/愛知・名古屋)大会の進捗状況について

AINAGOC 事務局長より、大会の進捗状況について報告。

7 その他

- ・令和8年度第2回理事会は6月11日(木)15時開催と報告

以上